

2011年3月1日

連携機関：株式会社ネオテクノロジー

株式会社ネオテクノロジー
中島 隆

1. 講座の趣旨

人と情報の関わりについて、特許情報を例に論じる。

特許情報は世界中の技術者が文字通り心血を注いで研究開発した成果である。そこには、一刻を争う先端的技術開発の最前線の生々しい状況が反映している。

あらゆるジャンルの、あらゆる切り口の発明が公開される。それは、新たな創造への手掛かりとなるはずである。

私たちネオテクノロジーは、特許情報を高次な知的情報として活用する方法を研究し、紹介している。

特許情報を単に技術情報や権利情報としてではなく、たとえば新たな創造への手掛かり、あるいは技術開発の路線策定、事業計画のロードマップ作成の基礎資料として活用することを提案している。

最近のIT技術の急激な進歩により、特許情報のあり方も大きく変化している。以前よりはるかに大量のデータを詳細に分析することが可能になった。

しかしながら、情報の意味を判断することはコンピュータにはできない。大量のデータから必要なものを選び出し、並べ替えて資料を用意することまでは機械でも可能であるが、しかしその価値を判断し、意味をとらえることは、あくまでも人間に委ねられる。私たちネオテクノロジーは情報の使い方についてお客様とともに研究し工夫してきた。講座では、個人で情報に取り組む場合とグループで取り組む場合、あるいは開発の初期段階での取り組みと最終段階での取り組みなどについて紹介する。

状況に応じた情報の見せ方（俯瞰か細部か）、情報の表現、情報の分類など情報活用の様々な局面を紹介し、受講者の皆様とともに考えたいと思う。

2. 想定する受講者

- ・人と情報の関わりについて関心のある人
- ・技術開発と情報について関心のある人
- ・特許と技術の関わりについて関心のある人
- ・創造活動と情報の関わりについて関心のある人
- ・文科系の人の受講も歓迎